

日刊 動労千葉

86. 2. 19

No.2171

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九二五〇六・（公衆）〇四七二二二（七）二〇七

見たか、この凶魂

大量処分・弾圧・スト破りダイヤ 敵の「ストつぶし」願望は大破綻

動労本部革マル 国労恵質指導部の裏切り大陰謀に国労組合員の怒り爆発

津田沼支部一二六名組合員は、山下支部長の下、文字通り撃って一丸となり「61・3ダイ改」―業務移管阻止の二・一五第二波ストを貫徹し、確実に勝利の展望を切り拓いた。国労指導部の一方妥結、当局の一方強行策動を断じて許さず、さらに、第三波・第四波の闘いを最先頭で闘いぬき、必ず「61・3ダイ改」―業務移管阻止、全国鉄労働者の怒りの総反撃を創りだすため闘いぬくことを誓う。

津田沼

り、勤務外九十名の組合員の結集のもと、スト前夜総決起集会を開催、ただちに全員ろう城体制に入り、十五日始発より、敢然とストライキに突入した。



津田沼の闘いを「2波スト」を「1波」に引き続き

午前八時半、全組合員が組合事務所前に結集し、当局の集會中止、排除攻撃をぶち破り、断固としてスト突入集會を開催、勤務者以外行舎排除、予備勤務者に対するスト不参加の確證書の強要攻撃など、スト破壊攻撃と対決しきり、一糸乱れず十七時三十分のスト集約指令まで戦闘的に闘いを貫徹し、国労指導部の一方妥結、当局の一方強行を粉碎しきつたのである。

「61・3ダイ改」阻止、全国鉄労働者の決起を実現するため、津田沼支部は、第三波・第四波の闘いを最先頭で闘いぬくことを誓うものである。

われわれは、当局・権力・動労革マル、そして国労指導部の裏切りをはねのけ、第二波ストを貫徹し、勝利した。闘いぬいた組合員の活気はますます高まっています。

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /

完べきのスト体制で突入 ―処分後わずか二週間で―

一・二八の超反動大量不当処分は、第一波の波及力に恐れをなした政府・当局の第二波ストつぶしそのものであった。しかし津田沼支部は、支部組合員数の一割、十一名の解雇という凶暴な組織破壊攻撃にひるむどころか、より怒りをたぎらせ、一・二九からの不当処分粉碎の強力順法、二・四からの線見阻止闘争と連日闘いにつぐ闘いを貫徹し、当局の「二波はできない」などという願望とは裏腹に、処分後わずか二週間で完璧な闘争体制を確立し、第一波をも上まわる弾圧体制をはねのけ、勇躍第二波ストライキに突入した。

未曾有のスト破り―弾圧体制 ぶち破って貫徹

朝から二〇〇名をこえる白腕・公安が庁舎をうづめつくし、構外には、輸送車四十台分の国家権力機動隊がひしめき、弾圧・介入の機をうかがうという緊迫したふんい気の中で、二月十四日の十八時よ

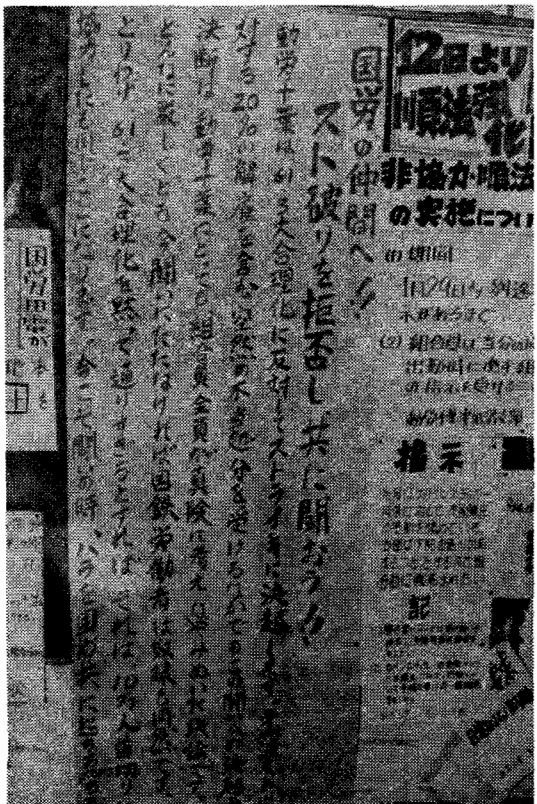
これが「スト破り」でなくて何だ!!

―当局と完全に一体となり、スト 破りに血道をあげた動労革マル と国労指導部―

われわれの第二波ストにかけた迫力は、当局をたじろがせると共に、裏切りを繰り返す国労指導部の片仕切り策動をも封じこめ、国鉄労働者の怒りの決起こそが一切を決めるといふ現実性―勝利への巨大な可能性と展望を切り拓いた。

しかし、われわれが断じて許してはならないのは、動労革マルの全面協力・国労指導部の裏切り―当局と結託したスト破りである。

国労指導部は、「スト破り拒否」断固闘



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!